

を期待してやまない。

なお、詳細は「国有林における農薬問題資料2」＝全林野労働組合九州地方本部薬剤研究会議発行＝に明

らかである。

参考文献 樹海からの告発《林業黒書》＝全林野労働組合編

国有林における農薬散布の実態と問題点（Ⅱ）

— 農薬散布労働者への影響 —

全林野労働組合九州地方本部

執行委員長 今 村 晁 夫

全林野労働組合九州地方本部

薬剤研究会議事務局長 堂 園 純 男

はじめに

林業部門への薬剤導入は、殺虫剤、殺鼠剤、除草剤など多岐にわたり、それら薬剤の健康に及ぼす影響も多様であると思われる。そこで、まず除草剤の問題をとりあげ、国有林においてどのような状況で使用され労働者の健康に対して如何なる影響を与えているかを明らかにする目的で実態調査を行なった。調査は九州管内の15営林署から質問紙に回答のあった221名（回収率69%）について行なわれた。

1. 除草剤の使用状況

国有林における除草剤の使用は、年々増大しているが、対象者も平均15日程度散布に従事しており、連続3日以上散布作業に従事したものは71%にのぼる。使用した薬剤の種類は塩素酸塩系とフェノキシ系がほとんどであり（表1）、その用途としては、下刈のスポット散布やつる切時つる枯殺などに多く用いられている。

2. 薬剤散布時の中毒予防対策

除草剤散布時の中毒予防対策は、当局から作業員に対して防護衣、防護マスク、防護手袋、防護足袋などが大体支給されており、それらの実際の着用状況は、常時着用と大体着用したとするものが約90%を占め、全然防護具をつけなかったというものは3%にすぎない。また多くの人は個人的にも作業後に体を洗うとか、

表1 使用除草剤の種類

薬 剤 名	人 数	
塩素酸塩系	クロレート50	169
	クサトール50	165
	デゾレート50	128
	シタガリン	63
	ダイソレート50	21
	その他	24
フェノキシ系	ブラキシラー粒剤	127
	ブラキシラー乳剤	98
	ウイードン2・4・5-T乳剤	50
	ファイントール50	25
	その他	4
フレノック	23	
ダウボン	11	
その他	2	
記入なし	2	

ウガイをするなどして中毒にかからないように一応努めている。一方、散布作業者がきちんとした健康診断を受けているかどうかをみると、散布する前と後にきちんと健康診断を受けているのは、わずか14%にすぎず、事前だけに受けたもの41%、全然健康診断を受けていないものが32%を占めている。その内容は、血圧測定が6割を占めるが、問診だけというものが41%もあり、薬剤散布に際しての健康診断には問題がある。

3. 除草剤散布による中毒症状の発生

既述のごとき、中毒予防対策のもとで調査対象者中59%のものが、昭和44年、45年の2年間において種々の中毒症状を経験している。その症状は様々であるが薬剤の種類別に中毒症状をみると塩素酸塩系では、「傷がしみる」という皮膚粘膜刺激症状を訴えるものが圧倒的に多く発症者の63%を占め、ついで「発汗過多」「食欲不振」「頭痛」「気分が悪くなる」などの症状を訴えるものがこれにつづく。

一方、フェノキシ系中毒症状とみられるものは、「食欲不振」「発汗過多」「気分が悪くなる」「頭重」「はき気」「全身倦怠感」など主として自律神経系を中心とした全身的な中毒症状であり、これらは訴えのなかでそれぞれ半数近くをしめている。

今回の調査は、薬剤散布に伴う急性の中毒症状を調べたものにすぎぬので、慢性中毒も含めるとかなり多くの作業者が薬剤の影響をうけていることが推察される。なお、除草剤以外の農薬使用経験の有無と、それらの薬剤による中毒罹患の有無を調べたところ、除草剤以外の薬剤を使用したことのあるものは67%で、そのうち32%が中毒に罹った経験をもっており、薬剤の種類としてはBHCが特に問題視されている。

以上の成績は、中間報告的なものであるが、健康の面からみても国有林における農薬使用の現状には明らかに問題が多い。

なお、詳細は「国有林における農薬問題資料2」＝全林野労働組合九州地方本部薬剤研究会議発行＝に明らかである。

表 2 除草剤使用に伴う主な中毒症状

		塩素酸塩系	フェノキシ系	両者	不明	計
頭	痛	5	11	7	8	31
頭	重	1	9	7	11	28
吐	気	3	10	6	6	25
息	苦	0	5	6	4	15
全	身	3	8	9	10	30
発	汗	0	4	2	1	7
発	汗	9	13	20	20	62
食	欲	7	14	10	10	41
腹	痛	1	5	4	0	10
尿	が	0	8	2	6	16
ク	ン	0	3	3	12	18
下	痢	3	7	4	1	15
皮	膚	4	6	7	0	17
目	の	4	3	3	2	12
ノ	ド	0	1	2	3	6
気	分	5	12	4	5	26
鼻	の	2	2	3	7	14
黄	だ	0	3	0	0	3
傷	が	19	5	11	16	51
め	ま	0	1	3	2	6
動	悸	1	1	1	3	6
そ	の	3	1	6	7	17
該	当	30	25	35	41	131

(注) ① 何らかの自覚症状を訴えたもの 131名 (59%)
 ② 全く健康診断を受けなかったものの中で、53%の人が種々の症状を訴えている。

国有林における農薬散布の実態と問題点 (Ⅲ)

—— 林業技術者のみた林業農薬問題 ——

全林野労働組合九州地方本部

執行委員長 今 村 暁 夫

全林野労働組合九州地方本部

薬剤研究会議事務局長 堂 園 純 男

国有林において使用されている除草剤の農薬散布を一つの林業技術としてみた場合林業生産の現場に従事している林業技術者(主として担当区主任)はそれを

どのように考え、どう対処しようとしているのかを知らそうとしたのがこの調査である。調査は九州国有林の各営林署の林業技術者を対象として、林業技術上の効